

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 7月 21日

【評価実施概要】

事業所番号	2070101684		
法人名	医療法人みすゞ会		
事業所名	グループホーム星のさと		
所在地	長野県長野市篠ノ井小松原2361 (電話) 026-261-1551		
評価機関名	コスモプランニング有限会社		
所在地	長野市松岡1-35-5		
訪問調査日	平成19年6月22日	評価確定日	平成19年7月17日

【情報提供票より】 (平成19年 6月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 9月 10日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 7人, 非常勤 8人, 常勤換算13.6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有 (円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(平成19年 6月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	2	要介護2	2
要介護3	3	要介護4	7
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 85.6 歳	最低 77 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・長野赤十字病院 ・厚生連篠ノ井総合病院 ・草深歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「一人一人に一人一人の介護を」を理念として地域に密着した運営がされている。周りを取り巻く環境も自然豊かで、四季折々の移り変わりを五感で感じることができる。ホームの施設面でも開設当初からスプリングラーの設置がされており安全面にも配慮がされている。各ユニット中央には中庭が設けられており採光面でも工夫がされている。医療面でも同じ法人運営の老人保健施設、診療所が隣接しており、入居者・家族の安心、信頼に繋がっている。入居者一人ひとりのアセスメントは詳細にされており、介護計画の記述も誰にもわかるように工夫されており、具体的にされていた。訪問調査当日の「そば打ち教室」の例のごとく、小規模施設として開設当初から地域のボランティアや自治会との連携を重視しており、入居者本人がより良く暮らし続けるために更に地域と協働していこうとする積極的な姿勢が窺えた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回、介護計画に関して家族の確認時期の記載と評価・見直し及び担当者会議の記録の仕方が課題となっていたが、今回の訪問調査では確認時期の記載と記録の整備がされており、前向きに改善に取り組んだことが認められた。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	評価をするにあたり、職員各自による自己評価が行われ、全職員で話し合いがもたれた。自己評価を行ったことで、職員が地域とのふれあいが大切なことを感じたり、日々のケアを見直したり、ケアの質の向上に向けた意識が今まで以上に高まっていることが窺えた。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議の意義や役割等は十分理解している。今後も定期的に開催し、参加メンバーから率直な意見をいただき、また地域との交流を深めていきたいという積極的な姿勢が感じられた。また、更なるサービスの質の向上に取り組むため、市高齢者福祉課の担当者を招き、高齢者の福祉施策の講演を聞くなど行政との連携も図っている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月家族に送る生活状況連絡票の欄外、ご意見箱の設置、また重要事項説明書の連絡先の項目の工夫などがあり、家族からの率直な意見、不満、苦情等を積極的に聴くための取り組みがされている。意見、要望等は月1回のミーティング時に検討され、反映されている。 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 訪問調査当日も地域ボランティアによる「そば打ち教室」が実施された。地域の芸能祭や運動会等を見に行ったり、文化祭には作品を出品するなど入居者と共に積極的に地域との交流に取り組んでいる。隣設老健と合同で“星のさと祭り”を開催し、地域の人たちに施設を開放している。年々来訪する住民の数が増えてきている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が地域の中で安心して生活できるように一人ひとり個別の対応をしている。理念も簡潔明瞭で親しみ易い。	○	地域密着型サービスとして、地域の環境や入居者の変化に合わせ、理念の追加、修正にも取り組んでいただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念の中身を理解している。入居者一人ひとりにあった支援が出来るように常にカンファレンスを通して意見の統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	訪問調査当日も地域ボランティアによる「そば打ち教室」が実施された。地域の芸能祭や運動会等を見に行ったり、文化祭には作品を出品するなど入居者と共に積極的に地域との交流に取り組んでいる。隣設老健と合同で“星のさと祭り”を開催し、地域の人たちに施設を開放している。年々住民の来訪数が増えてきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価をするにあたり、職員各自による自己評価が行われ、全職員で話し合いがもたれた。自己評価を行ったことで、職員が地域とのふれあいが大切なことを感じたり、日々のケアを見直したり、ケアの質の向上に向けた意識が今まで以上に高まっていることが窺えた。		

グループホーム星のさと

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の目的を理解している。今後も定期的開催し、参加メンバーから率直な意見をいただき、また地域との交流を深めていきたいという積極的な姿勢が感じられた。	○	地域とホームとの交流促進のためにも、運営推進会議のメンバーからの助言を得、サービスの質の向上に繋げていただきたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	更なるサービスの質の向上に取り組むため、市高齢者福祉課の担当者を招き、高齢者の福祉施策の講演を聞くなど連携を図っている。	○	ホームの実状やケアの取組みの実態を機会をとらえ市窓口伝えていただきたい。また、グループホーム連絡協議会にも諮り、課題解決に向け市窓口とともに協働していただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「生活状況連絡票」を毎月個別に作成し、その中には購入品のこと、健康上のこと等9項目を報告している。金銭管理についても毎月報告がされている。職員の異動等については、玄関の掲示板へスタッフ紹介のための顔写真を掲示される等工夫されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月家族に送る生活状況連絡票の欄外、ご意見箱の設置、また重要事項説明書の連絡先の項目の工夫などがあり、家族から率直な意見、不満、苦情等を積極的に聴くための取り組みがされている。意見、要望等は月1回のミーティング時に検討され、反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人の運営上、定期的に職員の入れ替えを行っている。交代時は、入居者が不安にならないようにきちんと紹介し、また家族にも報告している。	○	馴染みの職員の交代は入居者にとっては、目に見えない不安が出やすいものなので、利用者、家族等への配慮を含めた最善の対応を行って頂きたい。

グループホーム星のさと

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修に積極的に参加している。運営者・管理者・経験豊富なスタッフ等がスーパーバイザーとなり、職員の育成を図っている。法人全体で職員育成を計画的に行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームに見学に行ったり、また見学を受け入れたりしている。管理者は市内の連絡会に参加しており、同業者のネットワークづくりに積極的に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	特例は除くが、時間をかけて入居できるよう努めている。ホームでの体験入居はないが、隣設の老健でのショート利用中に訪問を行い、人間関係を築くなど工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側される側という意識を持たず、一緒に過ごしながら、喜怒哀楽を共にしている。料理の仕方、掃除の仕方などで職員は利用者から教えられることが多い。		

グループホーム星のさと

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を取り入れるなど、アセスメントの手法は確立している。一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を入居者、家族等から把握している。入居者の望む暮らしに寄り添えるよう積極的に取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者一人ひとりのアセスメントが十分に行われている。全職員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、現状に即したものであるように臨機応変に見直しを行っている。また、介護計画の遂行状況も評価している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族が安心して生活が継続できるように、隣設の医療機関への受診の介助や医療処置を受けながらの入居継続等、必要な支援を提供している。		

グループホーム星のさと

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者家族にかかりつけ医の希望を聞き、希望の医療機関を主治医としている。入居者の多くは同法人の医療機関を希望している。日々主治医と連携を図っている。いつでも必要な時、医師の診察、治療を受けられる体制が出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、検討中である。入居者、家族からは住み慣れたホームでと希望が多い。入院し、重度化された入居者については何度も面談を行い、できるだけ家族の希望を受け入れられるように努めている。	○	開設以来の入居者もおおり、平均の介護度もかなりアップしてきているものと思われる。本人、家族とも十分話し合いをもたれ、対応していただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底を図っている。言葉かけや対応にも配慮し、一人ひとりの誇りを尊重した取り組みを心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズム、ペースを大切にし、その人らしい暮らしが送れるように希望を尊重し支援している。基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの状態や気持ちに配慮しながら柔軟に対応している。		

グループホーム星のさと

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付けや後片付けを職員と一緒にやっている。また利用者と職員が同じ食卓を囲んで同じものを食べながら、楽しく食事が出来るように雰囲気作りも行っていた。訪問調査当日はボランティアによるそば打ち教室があり、入居者の中から腕に覚えのある方がそば打ちをし盛り上げていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のその日の希望を確認している。入浴は希望があれば毎日でも可能である。仲のいい利用者と一緒に入浴をしている。ユニット間の大小の浴槽や隣接老健の大浴場等を臨機応変に利用し、入浴を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事、オルガンを弾く、本を読む、花の水くれ、散歩など一人ひとりに合った役割や楽しみごとがあり、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月、行事担当の職員が外出（花見、動物園、寺院など）を計画したり、散歩や屋外で食事をしたりお茶を飲んだりとホーム外へ出るような支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解している。外出傾向の利用者がいるが、見守りや時には一緒に外出するなど、気持ちを大切に支援を行っている。		

グループホーム星のさと

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を隣設老健と合同で、春と秋の2回行なっている。避難方法や避難経路を全職員把握している。運営推進会議には地元の区長や消防団分団長が参加しており、協力体制も整備している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が多くの時間を過ごす居間兼食堂には、手作りの作品、季節の花などが飾られていた。キッチンからは食器の音や野菜を切る音に混じって入居者と職員のおしゃべりや笑い声が聞こえた。“何か楽しそう”そんな気持ちにさせる雰囲気があった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が馴染みの家具や家族の写真などに囲まれ、安心して過ごせるようにと居室の工夫がされている。		

※  は、重点項目。